

VU (絶滅危惧Ⅱ類)

コウチュウ目 クワガタムシ科

カテゴリー判定基準：B-1, 2, 3

オオクワガタ

Dorcus hopei binodulosus Waterhouse, 1874

旧レッドリストカテゴリー		
1991	2000	2007
—	NT	VU

国内最大のクワガタムシとして人気が高いオオクワガタは北海道南部から九州まで広く分布するが、いわゆる里山の雑木林をおもな生息地としているため、開発の影響が深刻である。加えて、販売目的の大量採集や国内に流通する大量の外国産の別亜種や他地域の個体群との競合や交雑による遺伝子浸透も新たな脅威となっている。

Dorcus hopei binodulosus is the largest lucanid species in Japan, and this beetle has been the most popular among Japanese insect collectors. The degradation of habitat especially lowland forest such as the so-called “Satoyama” and excessive commerce collection have been responsible for the decline of its wild populations, and this beetle has been ranked in the Japanese Red Lists as an endangered species since 2000. Besides these, recently Japanese each native population has been threatened by an influx of foreign and/or different regional populations traded as pets, which might drive it to extinction via competition and/or hybridization.

基礎情報

■**形態** 日本最大のクワガタムシで、オスの体長は76mmに達する。黒色で体型は平たく幅広い。オスの大髀は、太くてゆるやかに弧状に曲がり、1本の大きな内歯を備える。メスは光沢が強く、上翅には12条の点刻列からなる縦条がある。

■**分布域** 北海道（南部）、本州、四国、九州、佐渡島、対馬。国外では、朝鮮半島と中国東北部。

■**生息環境** 平地から低山地の雑木林（いわゆる里山）をおもな生息地としているが、北日本ではブナ林、また九州南部では照葉樹林にも生息する。河川敷のヤナギ林などでも発生する。

■**生活史** 成虫は5月中頃より10月頃まで見られ、樹液に集まるが、夜行性で日中は木の洞に潜んでいることが多い。灯火にも飛来する。産卵から2年目の秋に羽化した新成虫は、そのまま蛹室に留まって越冬し、翌年に活動を開始する。

現在の生息状況

■**分布域の現況** 薪炭用の台場クスギが多い山梨県や関西、九州北部などのかつての有名産地でも、現在では個体数の減少が著しい。

■**生息地の現況** 開発による生息林の消滅に加え、ブームを背景とした過剰採集、とくに材割り採集の横行で現存する生息地も荒廃している。

存続を脅かす要因

開発による生息林の消失（11）、過剰採集、とくに材割り採集の横行による生息地の荒廃（41）、逃亡や放虫された外国産の別亜種や国内の他地域産の個体群との競合（56-1、2）や交雑（57-1、2）による遺伝子浸透。

保護対策の現状

42都道府県のレッドリストやレッドデータブックで何らかの指定を受けている。

特記事項

従来はクルビデンスオオクワガタ *Dorcus curvidens* の亜種とされていた。

参考文献

- 藤田宏, 2003. 日本のオオクワガタ大図鑑. BE・KUWA, むし社, 東京, (8): 8-30.
藤田宏, 2004. ホペイとオオクワガタ大図鑑. BE・KUWA, むし社, 東京, (12): 6-21.
水沼哲朗・永井信二, 1994. 世界のクワガタムシ大図鑑. むし社, 東京, 337pp.
水沼哲朗, 2000. コレクションシリーズ (5) クワガタムシII. ESI, 東京, 101pp.
岡島秀治・荒谷邦雄 (監修), 2012. 日本産コガネムシ上科標準図鑑. 学習研究社, 東京, 300pp.

執筆者：荒谷邦雄（九州大学大学院比較社会文化研究院）